

—— お知らせ ——

総会学術大会合同開催・開催回数・
核医学技術セミナーについてのアンケート結果報告

特定非営利活動法人日本核医学技術学会

理 事 長 片 瀬 哲 朗

企画戦略委員会 森 一 晃

日本核医学技術学会は会員への情報提供拡大ならびに学会の財政負担軽減を踏まえ、第28回総会学術大会より日本核医学会との合同大会を開催してきました。本年度の第38回大会（沖縄）で合同開催も10回を迎えようとしています。

企画戦略委員会ではこれまでの開催状況を振り返り、今後の合同開催の在り方を検討すべく、評議員の皆様から合同開催に対するご意見をアンケートにて聴取させていただきましたのでご報告させていただきます。また、アンケートでは第25回をもって終了する「核医学技術セミナー」の新たな学術企画についてもご意見をいただきましたので、併せてご報告いたします。

対 象 者：日本核医学技術学会平成28年度評議員

期 間：平成29年 7 月12日～平成29年 7 月31日

アンケート方式：各評議員の UMIN アドレスに対するアンケート配信

回 答 数：評議員112名中39名（34.8%）

1. 設問内容

Q1. 日本核医学技術学会・日本核医学会合同開催についてのお考えを教えてください。

- 1) これまで通りの合同開催で良い
- 2) 合同開催を解消し、単独開催にした方が良い
- 3) 合同開催は続けるべきだが、総会学術大会の内容を検討した方がよい
- 4) その他

Q2. Q1. の回答理由を記入ください

Q3. 学術大会について、現在は年1回開催となっていますが、2回開催（①合同開催時に卒後教育、教育講演およびシンポジウム等を中心とした学術大会 ②2, 3月頃に JSNMT 単独の研究発表のための学術大会）とした案も出てきています（総会はどちらかで開催）。ご意見をお聞かせください。

- 1) 年2回に賛成

2) 年2回開催に反対(従来通り年1回開催)

3) その他(新規提案含む)

Q4. Q3. で回答された理由をご記入ください。(必須)

Q5. 核医学技術セミナーは現在、各地方会持ち回りで年1回開催しています。開催体制についてのご意見をお聞かせください。

1) 従来通り各地方会持ち回りでセミナーを開催する

2) 主要都市(東京、大阪、名古屋など)のみでセミナーを開催する

3) セミナー企画を総会学術大会に移行する

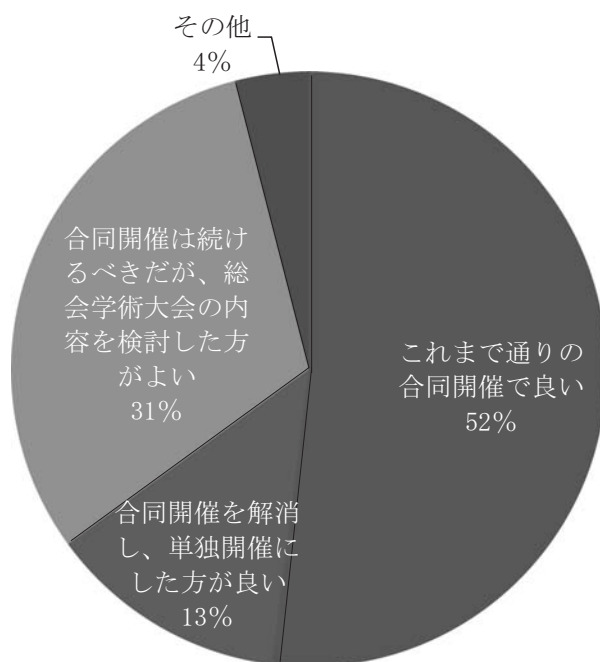
4) その他

Q6. Q5. で回答された理由をお聞かせください。

Q7. 他、学会運営に関してご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

2. 結果

Q1. 日本核医学技術学会・日本核医学会合同開催についてのお考えを教えてください。



Q2. Q1. の回答理由を記入ください

*重複・類似の多数意見は、集約して掲載しています。

肯定的意見

- 医学会側にも参加できるので、多職種の発表を聞くことができ、交流が広がり、多くの情報が得られる。

- 合同開催の方がシンポジウム，教育講演等の内容が充実している。
- 合同開催の方が学会運営の経費・人員派遣の負担削減にもつながる。
- 単独開催になった場合に，2つの大会に登録費を払うのは負担が大きい。
- 両学会に所属している会員数が増えない限り，別々開催ではどちらも参加人数の減少が考えられる。
- 両学会にも関わっている賛助メーカーにとっては金銭的負担が節約できる。
- JSNM との合同であれば開催するべきだが，世界核医学会などの国際学会との合同開催は，合同開催の趣旨から外れているため，一線を画すべき。

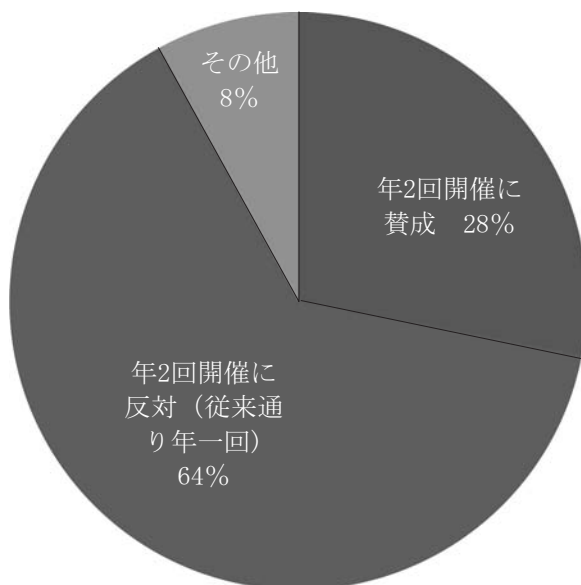
否定的意見

- 合同開催ではあるがスケジュール上がタイトで，専門技師更新等のためのプログラムなどの参加必須のプログラムに出席するだけで，他の参加したいプログラムに参加することができていない状態である。JSNMT，JSNM 両学会の会員資格にとっては不利益な面もある。
- 合同開催のメリットを再考すべき。運営や企画における JSNMT の独自性が薄れている。
- 開催時期，開催場所，テーマの選択，予算執行の選択などの自由度を考えると，開催規模が縮小してもいずれは単独開催でもよいのではないか。
- 継続・解消問題は10年も経過してしまった現在となつては難しい問題である。もし，解消するのであればきりの良いタイミングで思い切るしかない。解消した場合，JSNM の関心は薬剤師，医学物理士や看護師に向いている現況が更に顕在化する可能性もある様にも思います。一方で，診療放射線技師との関係が簡単に薄れるとも思えません。
- 日程が分散することで学会参加機会，発表の機会が増え，会員に取っては有用だと思われる。

その他

- 合同開催時は，研究発表のみにして卒後教育などは廃止する。
- 新しい企画が必要な時期である。
- 財政軽減は非常に大きな問題であると思う。②旧態依然の漫然とした発表と聴衆の形を続けていいのか疑問。
- 今後も JSNM と密接な関係を築いていかなければならないが，資金力の差は歴然で JSNM の主張に押されがちである。学術大会の内容を変える，変えない，は別として，10年の節目として検討するべき時期ではないかと考える。
- 学術大会にふさわしい内容を踏まえた上で，会員および社会のニーズに応えた方向性を検討してもよい。
- 長い間評議員会も開催されておらず，理事会での討議経過の詳細も伝達されておられませんので，適切な回答ができる自信がありません。

Q 3. 学術大会について、現在は年 1 回開催となっていますが、2 回開催（①合同開催時に卒後教育，教育講演およびシンポジウム等を中心とした学術大会 ② 2，3 月頃に JSNMT 単独の研究発表のための学術大会）とした案も出てきています（総会はどちらかで開催）。ご意見をお聞かせください。



Q 4. Q 3. で回答された理由をご記入ください。

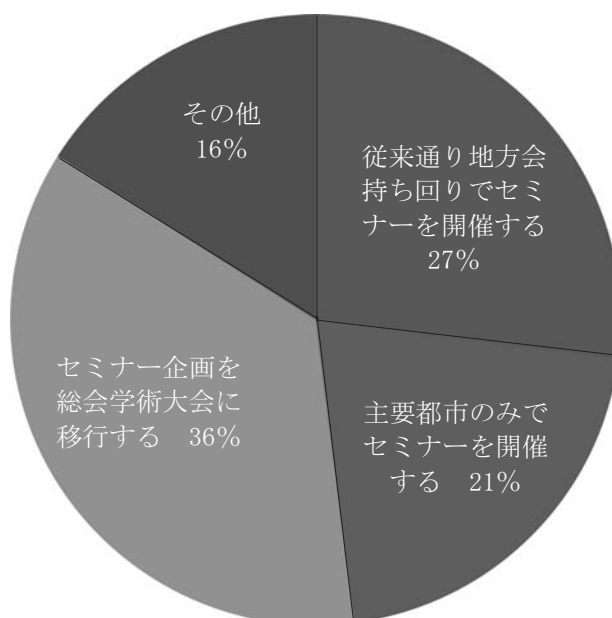
*代表的な意見を集約して掲載しています。

- 合同開催時に発表がないと参加しづらい。技術学会単独の学会は規模が小さくおもしろくない。
- 他の学会，研究会と日程が重複あるいは近いため，参加者減少の懸念と演題レベルの維持が難しい。
- 会員数が少なく，財政規模の小さい学会で，継続的に年 2 回の単独開催するのは難しい
- 年 2 回の場合，参加者の参加登録費や出張旅費等の経費負担が大きい。
- 会場費等を抑えて，参加登録費を 3 千円程度にできるなら，年 2 回でもよい。
- 年 2 回開催で，一方は研究発表に主眼を置いたもの，もう一方は卒後教育やセミナーを主体にした企画が良いと考える。
- 現状の地方会主体の運営方法では，学術大会開催にかかる委員の選出，開催場所の確保，人的パワー，経費のやりくりが更に地方会の負担となってしまう。
- 会員のレベルアップには学術発表と教育的企画の分離は必要かもしれない。
- 総会学術大会として年 1 回で良い。教育的講演などは核医学技術セミナーを学会本部企画にしてその中で開催する。
- 大会開催地域が偏ってしまったこの10年間に対する地方会組織力の立て直しを図

ることでは意義深い。2, 3 月開催は他の学会等の開催や年度代わりの時期でもあり、以前の様な夏季の開催も含めて検討が必要。

- 合同開催では、JSNM 春季大会のような教育プログラムのみにして、実行委員会を設けず JSNM に組み込む（委員を出す程度に留める）。代わりに、JSNMT 単独の総会学術大会に大会長を立てて開催する。
- 合同開催時は教育企画を中心とすることでスケジュールに余裕ができるので JSNM 企画に参加しやすくなる。一方、JSNMT 単独の学術大会は地方都市での開催を考慮すべき。
- これも、セミナーの代案だと思いますが、下記の質問のように機構等との共催が望ましいと思う。

Q 5. 核医学技術セミナーは現在、各地方会持ち回りで年 1 回開催しています。開催体制についてのご意見をお聞かせください。



Q 6. Q 5. で回答された理由をお聞かせください。

* 代表的な意見を集約して掲載しています。

- 本会が主体で開催が行いやすく、参加者も集まりやすいため、現状で不都合がないのなら、変える必要はないと考える。
- 現在の核医学技術セミナーの内容は、総会学術大会で充分補える様な気がする。地方で行うセミナーを行事として捉えれば無くすことに寂しさもあるが、形を変えていく必要は感じる。
- 地方会によっては、開催時期・内容・参加人数などの点から負担が大きい場合も

ある。運営スタッフの確保と講師の移動時間と交通の便を考慮すれば主要都市限定したほうがよい。ただし、核医学技術セミナーの実行委員長、実行委員は各地方会のメンバーが参画できるよう本部で調整を取ってほしい。

- 収益等の問題がなければ、少数精鋭なセミナーの開催を検討してみてはどうか。
- 地方都市で学術大会を開催することで、学会運営を学ぶ事ができ、受動的姿勢だったものが、能動的な姿勢に変わると考える。若い技師にも積極的に学会運営に関わってもらえるチャンスを提供したい。
- 北海道（札幌）、東北（仙台）、関東（東京、中部北陸（名古屋）、関西（大阪）、中国四国（広島）、九州（福岡）のブロックで教育レベルの統一を図りながら研修会を開催する。講師も各ブロックで質・量とも担保できると考える。各地方開催によって特色がでることに意味があり、地方開催することで各地方会との連携強化や核医学担当診療放射線技師のベースアップにつながると考える。
- 現状ではJSNMと大会が連動し続けることによって、主要都市で実行委員会を繰り返し組織し続けている。そのため、負荷の偏り・地方の組織力低下・プログラムの硬直化が懸念され、若手育成、レベルアップのためにも地方開催による基盤づくりが必要。
- 教育的講演・セミナーを学会本部企画として開催し主要都市・あるいは地方会で実施する
- 当番地方会に丸投げ感があるので、半分は本学会のプログラムまたは本学会のセミナー演者、あるいは専門技師を活用したプログラムを地方に展開してはどうか

Q7. 他、学会運営に関してご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

- 合同開催を続けてください。
- 会員数増加を図る学術、研修企画が必要であると考えます。特に20代技師を多く学会正会員に勧誘し、育てることが急務と考えます。病院技師は研究よりも研修に興味を示す割合が高いように感じる、本会の使命は研修から研究への道しるべとなることと考えます。
- 学問を論ずる団体の理事を務める方々には学位などの基準を設けるべきである。
- 国際化に乗り遅れないような運営が必要と考える。
- 地方会間の交流が行えるような企画が欲しい。
- 卒後教育、教育講演およびシンポジウム等を充実させるために研究発表を少なくともすればよいと思います。
- 正直、似たような演題ばかりで質が落ちていると思います。積極的にリジェクトして教育セッションの増設を希望します。
- 一般施設の会員と学会との間に距離を感じる。会員が身近な情報源として有益な存在と認識しているのが疑問がある。

- 合同開催は医学会・技術学会の実行委員会の連携が重要であり、対等な信頼関係を築くことが困難であればやめたほうが良いと考えます。後輩を学会に派遣する立場としては、合同の方が助かりますが、前述と相反します。また、現状では技術学会は医学会の従属学会のように見えてしまいます。技術学会独自に安全情報や最新技術情報などが発信できるような学会でなければ存在価値があまり無いように思います。
- JSNM との合同開催で参加登録費が15,000円と以前の3倍になり、他にも各種セミナー費用など、会員の参加費用負担は増加しています。学会本体の年会費についても、これに見合うだけの情報を会員へタイムリーにフィードバックできているかという点について理事会はどう考えているのでしょうか。標準化 WG 活動が一段落して以降の JSNMT から得られる情報は JSNM やメーカーを通して得られる情報と内容に大きな差異が無く、タイミングは遅れ気味であることは否めません。総会運営も含めて技師の主体性が薄まっている様で複雑な感覚があります。費用を徴収して講座を開催すれば表面的な実績にはなるのかもしれませんが、会員継続のメリットがはっきりしない状態で講習や大会の増設をしても、担当理事や若い技師の皆さんにとって重荷にならないか心配です。
- ①学会誌の発行が遅延傾向に思えます。この際電子化にしてはどうでしょうか？
②国際化への流れには逆らえませんが、JSNMT としての体力（人力、費用）は本当にあるのでしょうか？ 国際化、合同開催等の諸問題への対応で理事、委員の負担が大きく、会員に対しての学会本来の活動がおざなりになってしまっているように感じます。会誌が電子化されますとさらに有効活用が可能と思います。

ご協力いただきました評議員の皆様にご心から感謝申し上げます。

本アンケートにいただいたご意見を、これからの学会活動に反映させていければと考えています。今後ともよろしくお願いいたします

学会運営に関して、まだまだ多くのご意見をいただければと理事会では考えています。今後は学会 HP 等で一般会員の方からも意見聴取できる形を進めていきたいと思っておりますので、ご協力いただけますようお願いいたします。